

ホタルゆに～ホタルとおったらぶちおもしろいっちゃ～

代表者 鶴田治奈（農M2）

構成員 門脇祐（理M1） 森博隆（農M1）

今野由子（農4） 坂口かおる（農4） 橘麻里子（農4）

濱田朝美（農2） 岡菜摘（人2）

江尾陽（理1） 門脇巧（理1） 村松大吾（理1） 中尾駿（理1）

岡田奈々（農1） 志岐和美（農1） 菊永康志（工1） 吉原周平（工1）

石原涼（経1） 木村百花（教1）

（1）プロジェクトの目的

吉田キャンパス農学部附属農場付近にはかつてよりホタルが生息しているが、その数は年々減少していると言われている。本プロジェクトはキャンパスのホタルを再生していくことをねらいとしており、そのためにホタルのみならず他の生物にとっても住みやすい環境を学内につくっていくこととしている。また、私たちの活動が学生の環境学習の場、地域との交流の場、憩いの場へと結びつくことを期待している。

（2）プロジェクトの内容

学内のホタルの復活のために、ホタルの飼育、吉田寮前のホタル水路の管理、既存の水路の整備を行っていく。また、地域との交流の場として、榎野川ホタル水路での活動を進めている。環境活動を行う学生団体との交流会などのイベントにも参加している。

（3）現在までの活動状況

ホタルの飼育は、5月末の成虫採集に始まり、卵から孵った幼虫の世話を10月の放流に向けて継続的に行っている。吉田寮前のホタル水路については、5月に芝張りを行い、その後は堆積した土砂を上げたり雑草を抜いたりしてきた。既存の水路の整備については、堰づくり（流れを遅くして生物が住みやすいようにするため）を9月から着手している。

榎野川ホタル水路は、平成17年に竣工し関係者の方々の有志によって管理されてきたものである。管理をより円滑に行うため、そして地域と大学の間としこの水路を盛り上げていくために、本プロジェクトが事務局となり得るよう8月頃から準備を進めているが、色々と勉強中であり、これから足場を固めていこうとしている。

・実施済み事項

(1) ホタルの飼育

5月に成虫を採集。産卵・孵化をさせて今は10月の放流に向けて飼育中。

(2) 吉田寮前ホタル水路の管理

5月に芝張りを行った。その後は月に1回程度草抜きをしている。幼虫のすみかをつくるために、石を並べたりしている。

(3) 附属農場付近の既存の水路の整備

流れが急である箇所に堰をつくったりと、ホタルが住みやすい環境づくりを行っている。

(4) 地域との交流

関係者の方々が今まで関してきた榎野川ホタル水路について、より地域の人々に親しまれる水路づくりを目指して、私たちのサークルが事務局的な立場をとっていくこととなった。会議を開催したり、清掃活動に参加したりしてきた。また、榎野川ホタル水路や一の坂川での、親子の生物観察会へも参加した。

(5) その他

「環境『みらい』サミット（山口県立大学にて）」など、環境についての学生の勉強会や交流会に参加した。

・これからの予定

(1) ホタルの幼虫の放流

10月末に放流を予定している。放流の前には飼育室の解放し、サークルのメンバー以外の方々も幼虫を観察できるようにする予定である。

(2) 吉田寮前ホタル水路の管理

秋、冬となるこれからは、草抜きはこれまでよりも労力をかけないですむ。幼虫のすみかづくりはこれからも続けていく。

(3) 附属農場付近の既存の水路の整備

堰づくりや幼虫のすみかづくりはこれからも続けていきたい。

(4) 地域との交流

榎野川ホタル水路について、平川公民館だよりで水路の名前を募集することとなった。また、11月の始めには水路の清掃活動と合わせて何かイベントを企画・実行することになっている。これからこの水路での活動をより充実させていきたいと考えている。

(5) その他

12月末に、全国大学生環境活動コンテスト（エココン）に参加予定である。発表のための準備にも取り組んでいく。

予算使用状況

48,168円 (予算額 400,000円)

予算は、200,000円が活動費、200,000円が交通費となっている。これまでは、草刈の際の鎌などの物品や、幼虫の飼育で使うものを購入した。残金について、交通費は、12月末のエココン（東京にて）で使う。活動費は、大きな買い物として鎌などの備品を入れる物置を購入予定であり、7万円前後と思われる。